

「さんか・さろん」ニュース

11月のさろん

「世界スローネスフォーラム」に参加して

講師：齊藤 睦（地域総合研究所）

■地元の文化を継承し、多様性を大事にしている都市が 韓国の全州市に集結した。

11月1日から3日まで、韓国の全州市で開かれた「スローネスフォーラム」に参加してきた。

韓国の面積は日本の1/4で北海道くらい。人口は約5100万人。全州市は全羅北道の真ん中の市で全羅北道の道庁所在地。面積は、206平方キロメートルで、東京の23区の中の1/3程度。人口は約66万人。唯一の特定市（特定市というのは日本でいうと政令指定都市みたいなレベル）。韓国で最も住みやすい都市と言われている。ピビンバ発祥の地としても有名である。

参加したのは、イタリア語でチッタスローというスローシティ運動のイベント。本部はオルヴィエートというイタリアの小さい市で、事務局を設置して世界に情報を発信している。シンボルマークはカタツムリ。加入都市は世界で236都市、今も増えている。日本の加入都市は気仙沼市と群馬県前橋市の2つ。

参加者は150~200人。海外からの参加者は20人程度だと思ふ。このチッタスローが掲げているコンセプトは「マクドナルドのような均一化したグローバル化の動きに対抗して、自分たちの環境や継承してきた文化を守り、多様性を大事にしていこう、それによって健康なライフスタイルを送ることができる」というもの。情報を発信しながら賛同してくれる都市を増やしている。

今回の主催者は韓国のスローシティ本部。公的な認知もされているようで、韓国の国内でこのスローシティに加盟している13の自治体から約200万円ずつ会費を徴収して運営している（総額約2600万円）。

■式典は3日間で、6つの自治体や個人が表彰された。

3日間のうち、初日は視察、2日目がシンポジウムでプレゼンテーションや表彰式が行われた。

スローシティの評価基準は、環境保全、市民に便利な街のインフラ、都市計画、地域産物の利用流通促進、観光・保養客へのもてなし、市民の意識、景観の質など、全部で55項目にも及ぶ。

今回表彰されたのは、韓国のソウル市、イタリアのア



ゾロ市、オーストラリアの建築家、スペインの活動家など6つの団体や個人。

私自身、スローライフ・ジャパンが行っている「さんか・さろん」や「スローライフ・フォーラム」などの活動を紹介したところ、関心を持っていただき、とても評価が高まったと感じている。今後、韓国から問い合わせや視察が来るかも知れない。

3日目は視察や懇親会で伝統的な韓国料理を満喫した。

訪問する前、慰安婦問題など対日感情が強いのではないかと懸念していたが「日本は素晴らしい」という称賛の声が多かった。「日本ほど安全でキレイできちんとした文化が残っているところはない」という言葉も耳にし、そのほとんどがお世辞ではないと受け止められた。地方には反日感情を持つ人もいようだが、一部に過ぎないと実感して帰ってきた。

このスローネスフォーラムのメンバーのひとつ、気仙沼で「世界のスローシティ気仙沼に向けて」というテーマで早稲田大学と連携して作成された「Slowに込められた6つの精神」を紹介しておく。

この6つの精神とは・まず「じっくり」、単なるゆっくりでなく時間の流れに逆らってあえてスローダウンしていくこと。次に「しなやかに」。変化に対応していく可変性や適応力を持つこと。3つ目は「多様に」。選択肢が多様にあるということ。4つ目は「堅実に」。あるフィルターを通していろいろなことを自分たちなりに整理して解釈することで自立を維持するということ。5つ目は「次の時代を見据えて」。自分をコントロール、セルフサステインしてレジリエンス、ちゃんと復元していく力、余裕とか助長性までも持つ「溜め」のサイクルがスローの中に入っているということ。最後6つ目は「よく議論して」。より慎重で、計画的で、思慮深くて、熟議という意味がある。欧米でも暗黙に共有されている精神でもある。

(2017年11月21日開催)